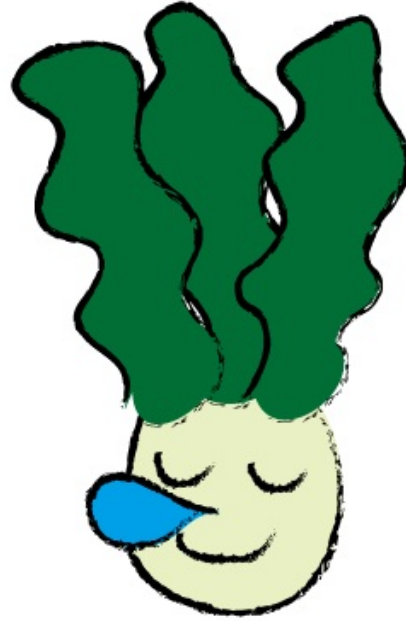


こまつちゃん

さく・え あくたがわ まさあき

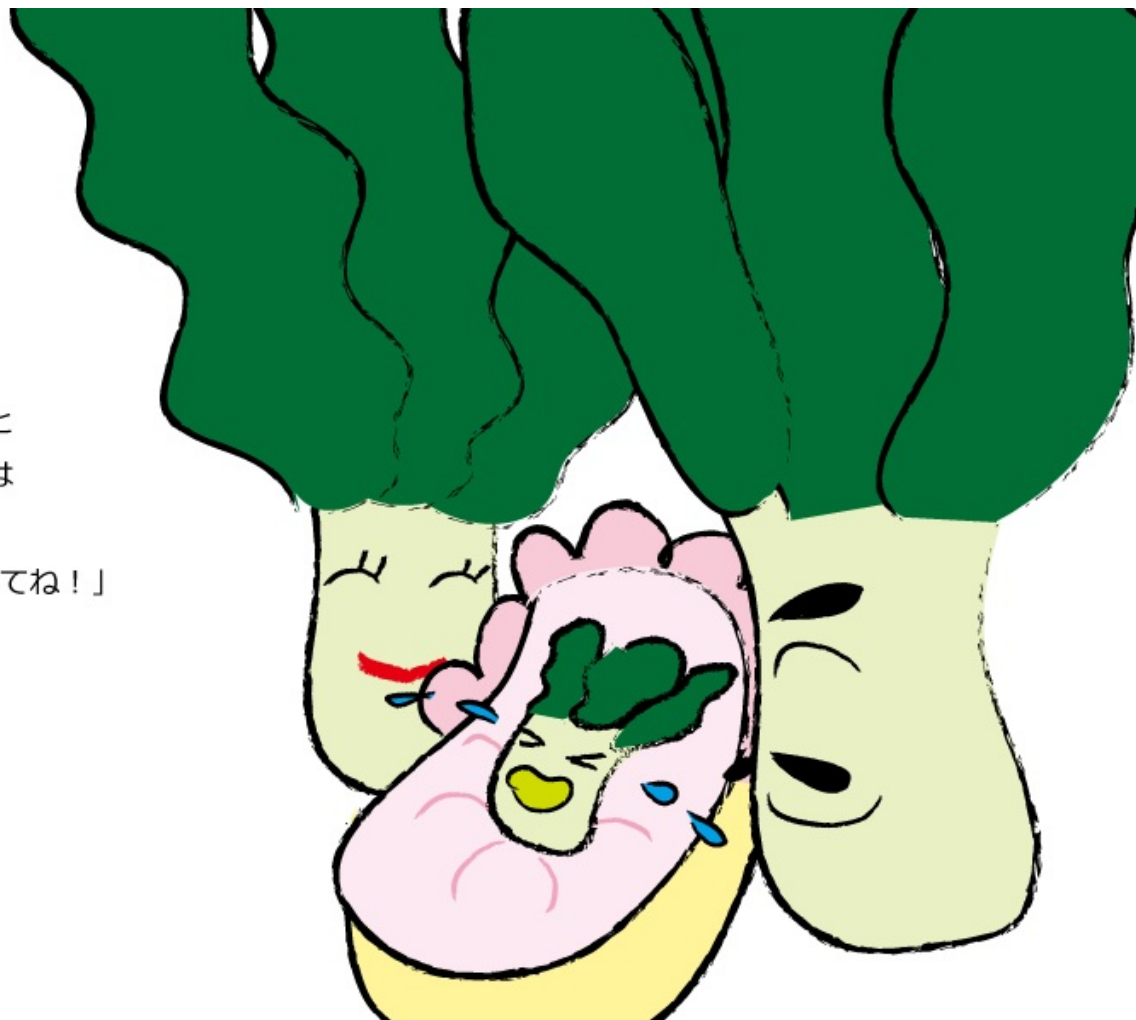


こまっちゃん

さく・え あくたがわ まさあき

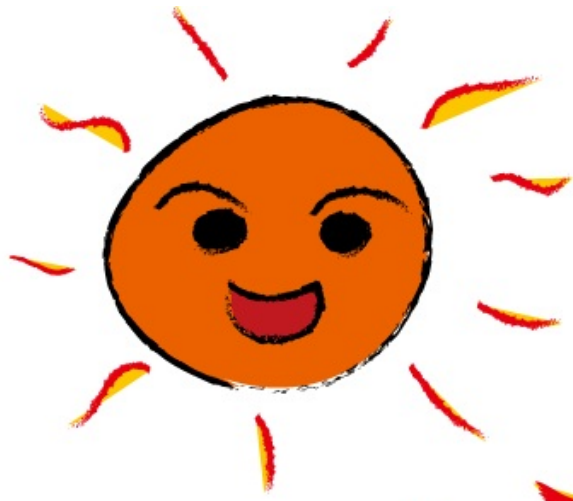


こまつな の
こまっちゃん が
うまれて、
こまつ とうさんと
つま かあさん は
およろこび。
「げんきに そだってね！」



こまっちゃん は よくたべ よくのむ。
おいしい あめのみず と はたけのつち が
だいこうぶつ。
「おいしすぎて とまんない！」



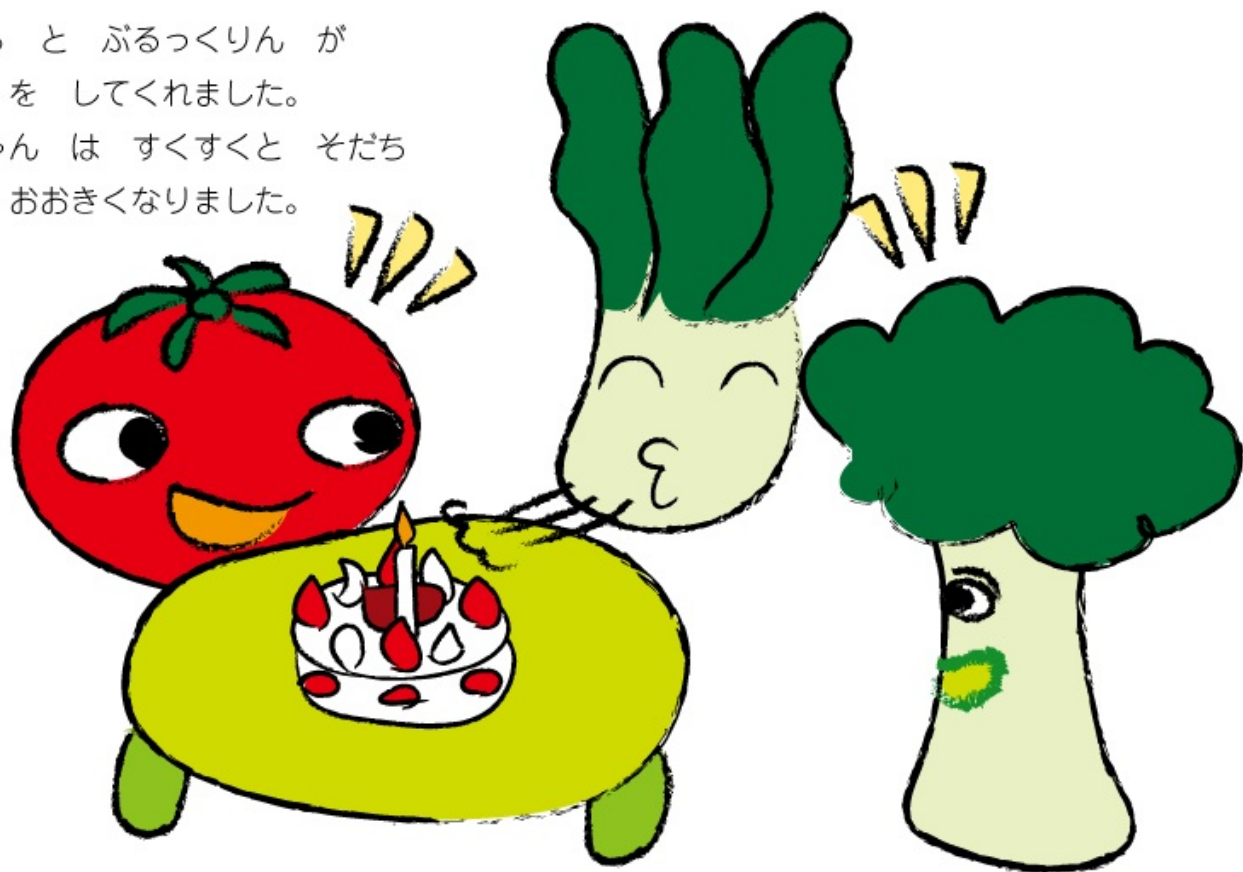


「それなら わたしの さわやかな
たいようこうせん を ほら～」
たいようさん の やさしい ひかりを
あびると こまっちゃんは
ぐーすかぴー。



「たんじょうび おめでと! こまっちゃん!」

とめいとう と ぶるっくりん が
おいわい を してくれました。
こまっちゃん は すくすくと そだち
すっかり おおきくなりました。



すっかり おおきく なった こまつちゃん。
「ぼくも おいしく たべてもらうんだ！」
そうすると、こまつとうさんが いいました。
「こまつちゃん。たべてもらう ためには
のうかさん いちばさん おかあさん たべるまん に
えらんで もらわないと だめなんだ。
えらばれないと **たいへんな こと**に **なるんだ**」



さて いよいよ のうかさんに えらんで もらう ひが きました。

「これは いいできだな」「やった！」こまっちゃんは ぶじ えらばれました。

「これは だめだな。すてよう」

あ！おともだちが ごみばこに すてられる！

こまっちゃんは かなしい きもちに なりました。



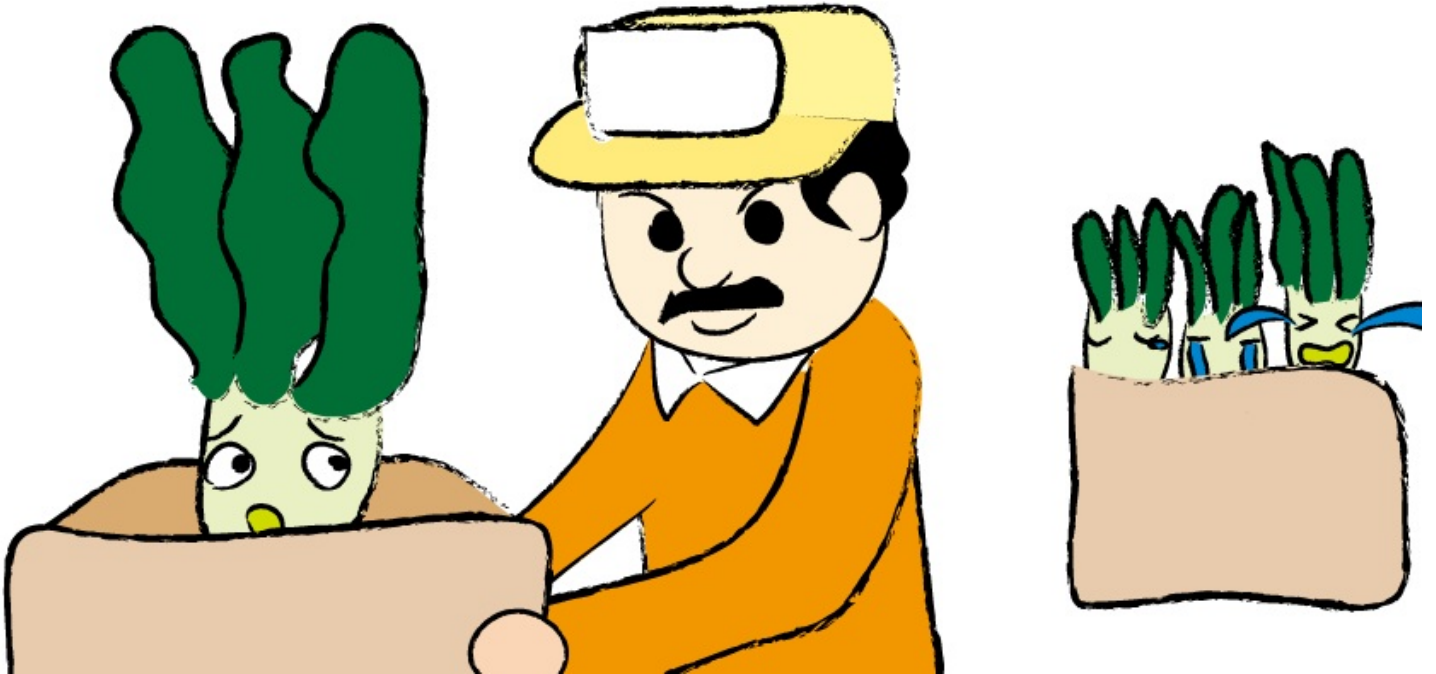
つぎは いちばさん です。

「これは いいかたち と いろだ」またまた こまっちゃんは ぶじ えらばれました。

「うえ～ん！たべてもらいたいよう！すてないでよう！」

うしろから ともだちの なきごえが きこえてきて

こまっちゃんは ますます かなしい きもちに なりました。



そして スーパー という ところで おかあさんが えらびます。
「これ おいしそう!」と ちいさな おんなのこが こまっちゃんを さしました。
「そうね。さーちゃんの えらんだ この こまつなに しましょう」
「やった!」



「さー おいしく なってもらわよ〜！」
おかあさんが こまっちゃんを おいしそうに
りょうり してくれます。
「すごいな！おいしい おまじない うれしいな！」
こまっちゃん も だんだん たのしく
なってきました。

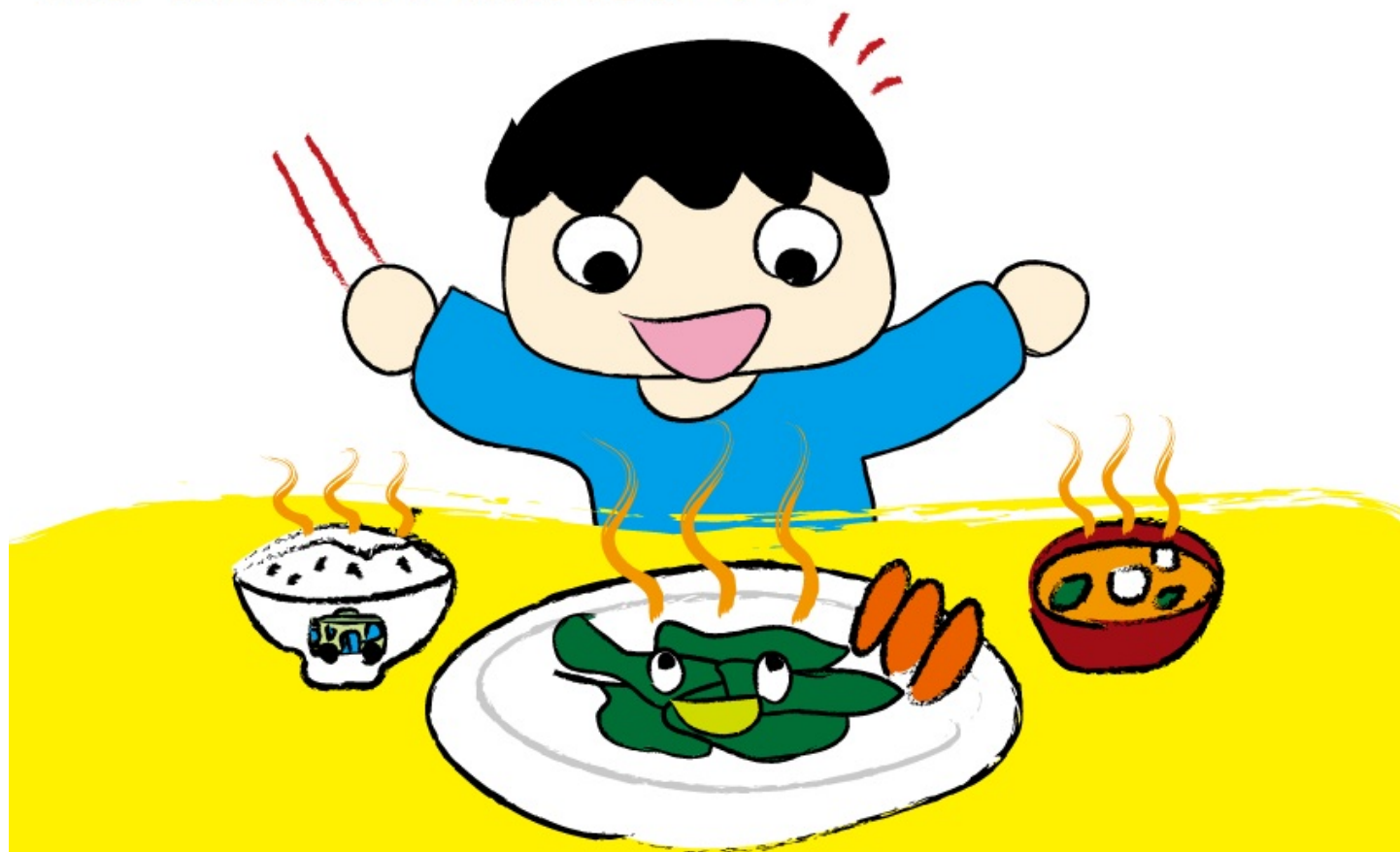


しかし りょうりが できた そのときです。
こまつとうさんが いったことばを
おもいだして しまったのです。
「おいしい りょうりに してもらっても
たべてもらえないと **うんち** と
いっしょに ながされてしまうんだ」
こまつちゃんは いままで みてきた
すてられた ともだちのことを
おもいだしました。
「**ぜったい たべてもらうんだ!**」



そして いよいよ たべるまんの まーちゃんの とうじょう です。

「わあ、おいしそう！ いただきます～す！」



「もぐもぐ・・・おいしい！！」

こまっちゃんは たべてもらえなかった ともだちを おもいだしました。
でも なかないで えがおで たべてもらう ことに しました。

「おとうさん！おかあさん！みんな！ぼく たべてもらったよ！」

こまっちゃん。みんなを えがおに できて
よかったね！

(おしまい)



